

PRP ^{たけっしょうばんけっしょう}（多血小板血漿） ^{ちりょう}治療について



医療法人社団親和会 京都木原病院

■はじめに

PRP（多血小板血漿）治療について説明します。

運動やスポーツをして膝や肘の関節等を傷つけてしまったときに早く治るように考えられた治療法です。

これからの内容をよく読み、説明を聞き、治療を受けるかをどうかあなたが決めて下さい。

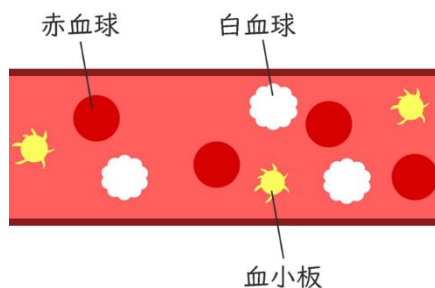
この治療を受けるか受けないかはあなたの自由です。

治療をすると一度決めても、いつでもやめることができますし、違う治療を希望することもできます。心配なことがあれば何時でも担当医師やスタッフに相談して下さい。

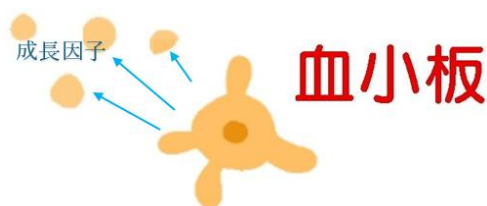
なお、本治療は中学生以上且つ18歳未満の未成年の場合は代諾者の同意を得た場合のみ治療が可能です。中学生未満の未成年の方は本治療の対象外となります。

1. 治療の内容

【PRP（多血小板血漿）とは】



PRPとは血液の中にある血小板を集めて濃縮したものです。PRP治療とは人がもともと持っている治す力を最大限に引き出す治療です。



【PRP の作り方】

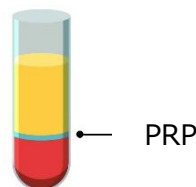
PRP はあなたの血液を採取し、それを遠心分離機という装置で分離し、
血小板を濃縮します。



【治療の流れ】

治療は日帰りで終わります。

- ① 診察をします。
- ② 採血します。
※約11-52ml
- ③ PRP を作ります。
※遠心分離・調製
- ④ 患部に注入します。



PRP



PRP の注入後はリハビリや通院が必要です。

2. 治療のメリットとデメリット

【メリット】

- ・肘や膝の関節の修復が早く進み、痛みが軽減します。
- ・入院や手術は必要ありません。
- ・体の組織の修復によって、早期のスポーツ復帰や活動ができることが期待できます。
- ・あなたの血液を使うため、アレルギーなどが起こりにくいです。

【デメリット】

- ・この治療は個人差があります。
- ・PRPには体の防御反応を高める成分も含まれているため、PRP注入後は一時的に炎症反応が出て痛みが強くなる場合があります。
- ・注射が苦手な人は気分が悪くなる場合があります。
- ・ごく稀に注射の部位に感染を起こす場合があります。

3. 他の治療との比較

	PRP	非ステロイド	ステロイド	ヒアルロン酸
効果持続期間	6 か月程度以上。 比較的長期	持続期間は短い です。	即効性はあるが持続 期間は短いです。	6 ヶ月程です。
治療後のリスク	注射部位が腫れる ことがあります。	長期的な服用は 副作用があります。	感染症の誘発等の リスクがあります。	注射部位が腫れる ことがあります。
品質の安定性	血液は人それぞれ 違うため品質がば らつく可能性があります。	安定しています。	安定しています。	安定しています。
アレルギー反応	あなたの血液のため、 可能性は低い です。	可能性はあります。	可能性はあります。	可能性はあります。

4. 治療費

この治療は健康保険が使えない自由診療のため、他の治療費が高額になることがあります。

【1回当たりの治療費（税別）】

- ・ Mycells PRP キットを用いた治療：8万円
- ・ Condensia PRP 調製キットを用いた治療：8万円
- ・ GPS III L-PRP 分離・抽出キットを用いた治療：16万円
- ・ APS キットを用いた治療：30万円

※治療を数回行うことがあります。

※一回あたりの治療費が割引されることがあります。

5. 個人情報保護について

あなたの個人情報は法律に基づいて厳しく保護・管理されます。

PRP治療をはじめとする細胞を使った再生医療は法律で定められており、治療の実施状況等を

厚生労働省に報告する義務があります。

そのような場合でも、お名前や住所などの個人情報が出るとは原則的にありません。

医学に関する学会等で研究のために氏名等を伏せて症例が使用される場合がありますが、

あなたの症例が使用される場合は、前もってお知らせし改めて同意をいただきます。

6. PRP治療の相談窓口

れんらくさき きょうとき はら せいけい げ か たんとうまどぐち
連絡先: 京都木原病院 整形外科 担当窓口

じゅうしょ きょうと ふきょうとし みなみくさいくじょうかすがちよう
住所: 〒601-8413 京都府京都市南区西九条春日町5-1

TEL: (075) 661-6022 (ダイヤルイン)

たんとう たんとう い し
担当: 担当医師

うけつけじかん へいじつ
受付時間: 平日9:00-17:00

まんいち しんりょうじかんがい じゅうとく しょうじょう で た ばあい きゅうきゅうしゃようせいとう ごこうりょ
※万一、診療時間外に重篤な症状が出た場合は救急車要請等をご考慮下さい